

令和 6 年度

学校評価状況の分析・改善

(1 2 月実施)

白山市立鳥越中学校

「よくあてはまる」で評価

()内は「よくあてはまる」「あてはまる」合わせたポイント

A…とても良好
B…良好(目標)
C…検討が必要
D…再検討・改善

※ 評価の観点による実現状況の達成度判定基準は、A～Dの4段階の基準で評価したものである。

〔a…よくあてはまる、b…あてはまる、c…あてはまらない、d…まったくあてはまらない〕

※ 判定は、学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果をA～Dの4段階の判定基準で評価したものである。また、その分析や改善結果・学校関係者評価について記載した。

重点	経営ビジョン	具体的な取組(重点項目)	質問紙NO.	評価の観点	達成基準	4月	7月	12月(現状)	結果分析・改善	学校運営協議会	次年度に向けて
1 学校経営の充実	学校評価を生かした学校経営の充実	【1. 教育目標・めざす生徒像】 (豊かな心と向上心にあふれる生徒の育成) ○4つの生徒像の実現 ・自ら進んで学習する生徒 ・互いの良さを認め高め合う生徒 ・心と体を鍛える生徒 ・ふるさにと誇りを持つ生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ○カリマネの柱である「たくましく伝えきる力」に向けて各分掌で取り組む ・確かな学力の育成 ・共感的な生徒指導 ・主任の機能化	① 生徒	学校は楽しい	a+b A-90% B-80% C-70%	96% A	98% A	95% A	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「学校は楽しい」という項目では生徒、保護者いずれの回答においても概ね満足できる結果となっている。特に「よくあてはまる」と回答した生徒の割合が4月より12%増加した。一方、「あてはまらない」と回答した生徒は2%で1人である。 「先生は悩みを聞いたり、困ったときに相談にのってくれたりする」という生徒の項目においては4月より3%増加して95%であった。「あてはまらない」と答えた生徒は1人で、3人の生徒が「わからない」と答えていた。生徒の中には、元気に学校生活を送っている生徒もあり、表面には出さないが誰もが悩みを抱えていると思って対応していく必要がある。 「先生は良いところや頑張ったことを認めてくれる」の項目においては「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した生徒の割合が96%で4月より2%上がっている。保護者においても4月より17%向上した。 【7月評価時点での成果と課題】 生徒一人一人を日頃からよく観察し、長所や努力しているところを見取ったり、悩みに気づいて声をかけたりするなど、いざというときに相談できる関係を教師自身が作っていくことが今後も大切である。また、生徒の情報を共通理解し、どの教職員も相談に関わることができる場の設定や相談体制の見直しを図ることが考えられる。保護者に対しては、今後も学校の方針、取組等を通信を通して発信するとともに、保護者の声に耳を傾ける等、家庭との連携を進めていくことが必要である。		【評価を終えて】 「学校は楽しい」という項目での肯定的な回答は7月に比べて全体で3%減少した。特に顕著な傾向が3年生に現れていて、「よくあてはまる」と答えた生徒が15%減少し、7月の段階ではいなかった「あてはまらない」「わからない」と答えた生徒もでてきた。受験に向けた学習中心の生活から悩んでいる生徒も出はじめたと考えられる。そのように回答した生徒に焦点をあててきめ細かな対応をしていきたい。 一方、「先生は悩みを聞いたり、困ったときに相談にのってくれたりする。」の項目では、3年生において「あてはまらない」「わからない」と答えた生徒の割合が減っており、担任の先生が進路実現に向けて面談を繰り返し、担任の先生が進路実現に向けて面談を繰り返してきた結果と考えることができる。全体として変化は見られなかった。 「先生は良いところや頑張ったことを認めてくれる」の項目では生徒の肯定的な回答をした割合に変化はなかったが、保護者では7月に比べて12%減少した。「あてはまらない」と答えた保護者はおらず、「わからない」と答えた割合が増えた結果である。学校行事や授業参観等で保護者が学校に来られる機会を活かし、生徒たちの頑張りを認める姿勢を見せるとともに伝えるようにしていきたい。 保護者への「お子さんは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている」の項目では7月より6%減少した結果であった。主に3年生の保護者の方で「あてはまらない」と回答した割合が増えており、受験に向けて不安になっているお子さんを見ていての回答と考えられる。生徒の回答においても肯定的な回答をした割合が7月の100%から6%減少した。しかし、「保護者と生徒との回答に一致した関係は見られなかった。「あてはまらない」と回答して生徒に対してはよく観察をするとともに、機会を見て話を聞いてやあげたり、温かい学校風土を築けるように努めていきたい。 学校での様子はほぼ毎日のようにホームページにアップされており、閲覧件数も多いことから多くの家庭で見えていただいていることから良好な結果であった。今後も情報発信に努めていきたい。
			② 生徒	先生は悩みを聞いたり、困ったときに相談にのってくれたりする。	a+b A-90% B-80% C-70%	91% A	93% A	93% A			
			③ 生徒	先生は良いところや頑張ったことを認めてくれる。	a+b A-90% B-80% C-70%	94% A	96% A	96% A			
			② 保護者	学校はお子さんの良い所や頑張ったことを認めてくれる。	a+b A-90% B-80% C-70%	81% B	98% A	86% B	○目標・計画の再設定(Action) 学校で大切にしたい楽しさとは、努力してできたことを喜んだり、仲間と力を合わせて何かできたことを楽しんだりすることであるということとを再度確認する。しかし、物事に対して前向きに捉えられない生徒に対して懇談等を通して背景から原因を解明し、学校生活に充実感をもてるように仕向けていく。また、主体的に取り組む協働的な活動を通して、生徒自らが「絆」を感じ取り、紡いでいく「絆づくり」や生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所をつくり出す「居場所づくり」に教師は努めていく。		
			③ 保護者	お子さんは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	95% A	98% A	92% A			
			5 教師	校務分掌や主任が適切に機能し、組織的に活動が行われている。	a+b A-90% B-80% C-70%	100% A	100% A	100% A			
			④ 保護者	学校の様子が懇談や各種お便り、ホームページなどでよくわかる	a+b A-90% B-80% C-70%	95% A	99% A	96% A	○目標・計画の再設定(Action) 全教職員の共通理解を図り、主任を中心に組織的に取組を進めていく。これからも家庭・地域に向けた積極的な情報発信をしていく。		
2 生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成「知」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・授業で自ら進んで課題に取り組んでいる生徒 ・授業で友達と学び合うことができる生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ・校内研究授業の充実 ・GIGAスクール構想の実現	⑥ 生徒	授業では自ら進んで課題に取り組んでいる。	aの3割 A-60% B-50% C-40%	17(92) D	40(91) C	25(93) D	○7月評価(Check) 【評価・分析】 今年度も高見を目指して「よくあてはまる」のみで達成基準を設定したが、「進んで課題に取り組んでいる」の項目でも「よくあてはまる」と答えた生徒は4月から23%上がったものの40%で目標に達成しなかった。しかし、「授業で友達と学び合うことができている」の項目においては64%と4月から18%上がり目標を達成することができた。どちらの項目においても「あてはまる」までを含めると概ね良好であると考え。 【7月評価時点での成果と課題】 カリマネの柱である「たくましく学び合う力」を目指して、授業の中でも取り組んで来たことが成果につながったと考える。今後は課題を自分事として捉え、学習課題に意欲的に取り組んでいけるようにしていく必要がある。 ○目標・計画の再設定(Action) 生徒達に50分後にどんなことを言わせたいのか。書かせたいのか。ねらいとするゴールの姿にするにはどういう課題にしたらいいのか。このように教師がねらいに達成するための授業構想をしっかり持って授業を行っていく必要がある。また、生徒指導の視点から生徒達にどんな姿になってほしいのかを生徒と共有し、定期的に評価してあげるような関わり方をしていきたい。	(後期) 低い結果であるが、ホームページを観るからにはそのように感じない。子ども達の中では主観的にやっていないと感じているのではないかと。本当に全力でやっていないと「よくあてはまる」につけられないのかと思う。変な意味での謙虚さが悪い数字にでているのかとも思う。子供らにとったら全部自分たちで決めて積極的にやっていくのでなければAをつけれないのではないかと。目標設定が高すぎるようにも思える。 コミュニティセンターには家で一人で勉強するより友達としたいと言って部屋を借りにきている子がいる。	【評価を終えて】 「授業では自ら進んで課題に取り組んでいる」という項目では「よくあてはまる」が7月に比べて15%減少し目標を達成できなかった。「あてはまる」まで見ると2%増えた。 「授業で友達と学び合うことができている」の項目では「よくあてはまる」の項目が4%減少したものの目標を達成することができた。 教職員に関してはどちらの項目においても7月とまったく変わらない結果であった。生徒たちが自信を持って「よくあてはまる」と回答できるようにするために、教師も日頃から研究主題を意識し、生徒主体の授業づくりを心掛けていく必要がある。 【求める生徒の姿】 ・授業で自ら課題に取り組んでいる生徒 ・授業で友達と学び合うことができている生徒 【具体的な取組】 ・様々な考え方が期待できる学習課題や日常生活と関連がある学習課題など、学習課題の設定 ・必要感のある交流活動の設定
			10 教師	授業では自ら進んで課題に取り組むよう指導している。	aの3割 A-60% B-50% C-40%	71(100) A	71(100) A	71(100) A			
			⑦ 生徒	授業で友達と学び合うことができている。	aの3割 A-60% B-50% C-40%	46(96) C	64(98) A	60(98) A			
			11 教師	研究主題に向けて重点を取り入れた授業づくりをしている。	aの3割 A-60% B-50% C-40%	57(100) B	57(100) B	57(100) B			

2	生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成「知」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・家で勉強している生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ・ガリガリノート（家庭学習ノート）の書き方の指導、展示 ・ガリガリノート一冊終了ごとに段位認定 ・テスト前にガリガリタイム（全校生徒で学習する時間）を実施 ・テスト前にガリ勉タイム（自主学習時間）の確保	⑧生徒	学んだことをふり返ったり、次の授業の見通した勉強を家でしている。	aの㊟ A—60% B—50% C—40%	12(74) D	23(78) D	19(76) D	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒は78%だった。また、「よくあてはまる」と答えた生徒も23%であり、4月から11%の増加にとどまり、目標には到達しなかった。 【7月評価時点での成果と課題】 教師の取組が「あてはまる」まで見ると100%であるが、「よくあてはまる」もみだと43%である。保護者の家庭学習の取組への評価も同様に低い。原因を分析し対策を講じる必要がある。 ○目標・計画の再設定(Action) 家庭学習の取組は個人差が大きいので、個別に家庭学習の取組について助言したりして意欲を促していく。また、家庭学習につながる授業づくりも大切になってくる。	小学校も中学年くらいからチャットで交流するようになり、それが学習時間を削いでいる。特に男子にある。鳥越の子も達は言ったことはちゃんとやる。でもこれで大人になったら足りない。言われたことだけやるんじゃないくて、自分でやりたいことを見つけたら、自分で計画立ててできるようにしなければならない。部活があるから勉強できないではなくて、その時間をどうやりくりするかが大事である。時間をやりくりしたり、自分で決めたことをやる力が弱い。授業の中でもみんなが同じことをやるのではなくて、自分で決めて勉強する。真面目で素直な子ども達が、言われたことだけするのは、中学校に行ったときに家庭学習ができないというのは、言われたことだけやってきた小学校時代を過ごしてきたら、どうやっていいかわからない。じゃあ、小学校で何ができるのか。どう時間を使っていくかを考えられるようにしたい。コミュニティセンターでも子ども向けの行事を企画しても子どもが忙しくて、行事にならない。学校での生活だけではなく、それ以外の習い事とかある。時間の使い方とか、自分で何かをするようになればいいのに。子どもは忙しいのかな。	【評価を終えて】 家庭学習については、「よくあてはまる」が4%減少し、目標を達成することができなかった。「あてはまる」まで見ても2%減少した。内訳を見てみると、3年生では「あてはまらない」が大きく減ったが、逆に2年生で増えた。一方、保護者においては3%増加した。教職員の方は7月とまったく変わらなかった。期末テストに向けて、生徒会で「学習RunRun」と銘打った家庭学習調査を行い、各学年の家庭学習の平均時間を掲示したり、呼びかけを行うなどしてきたこともあり、家庭学習への意識づけを生徒自身で取り組んだことは良いことであり、今後も機会を見て行えればと思う。 【求める生徒の姿】 ・復習や次の日の予習に取り組む生徒 【具体的な取組】 ・一人一人の学習到達状況を確認し、さらに意欲を引き出す取組
			⑦保護者	お子さんは、家庭学習に自主的に取り組んでいる。	a+b A—85% B—75% C—65%	69% C	70% C	73% C				
			12教師	家庭学習の質の向上を図る取組をしている。	aの㊟ A—60% B—50% C—40%	43(100) C	43(100) C	43(100) C				
3	互いの良さを認め合う生徒の育成「徳」	互いの良さを認め合う生徒の育成「徳」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・互いの良い行いや長所を見つけることができる生徒 【2. 具体的な取組み(Plan)】 ・各学級に道徳コーナーを設置 ・道徳掲示の充実 ・生徒会主催で「とりごえもんの羽」（友達の良い行いを伝え合うカード）の取組 ・各学級で行事の後などに、感謝の気持や良い行動を伝え合う	⑪生徒	友達の良い行いや長所を見つけることができる。	aの㊟ A—65% B—50% C—35%	33(93) D	49(98) C	38(96) C	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「友達の良い行いや長所を見つけることができる。」の項目では、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合が4月から16%増加したが目標には達成しなかった。「あてはまる」まで見ると良好である。「友達に対して思いやりの心で行動している」は4月から4%増加して目標を達成することができた。 【7月評価時点での成果と課題】 生徒同士で良いところを見つけ発表し合う「とりごえもんの羽」に加えて「みんなで咲かせよう ありがとうの花」の取組もあり、生徒の意識が高くなっていることが見て取れる。こうした活動を継続することによって、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。一報、教師の「よくあてはまる」が38%であり、教師の働きかけが原因であると考ええる。 ○目標・計画の再設定(Action) 目標の再設定はせず、教師自身が生徒たちの良いところを見つけて伝えていく取組を充実させることで、生徒たちの思いやりの心を育むようにしきたい。	（後期） 生徒たちは控え目であるが、住んでいる環境が影響を与えているのかなと思う。このような子ども達が高校に進学したら心配である。高1ギャップにならないようにしてあげなければならない。	【評価を終えて】 「友達の良い行いや長所を見つけることができる」の項目では「よくあてはまる」が7月から11%減少した。「友達に対して、思いやりの心で行動している」の項目でも「あてはまる」まで含めて見ると2%減少したが、「よくあてはまる」のみを見ると、7月の43%から17%減少した結果となった。以前まで毎日のように取り組んでいた生徒同士が良いところを見つけて名前やその行為を書く「とりごえもんの羽」の活動を少し抑えたことが結果につながったように思える。また、球技大会に向けて勝たたいという気持ちが強くなり、互いのミスを責めるようになったことも原因と考えられる。他者に責任転換するような言動がかえってマイナスを生む事や一人一人の良さを引き出すような声かけが大きな効果につながることを指導していきたい。そして、道徳教育にも力を入れ、他者への思いやりが自然と生まれるようにしていく。
			15教師	互いの良いところを見つけ、伝え合うための指導を行っている。	aの㊟ A—65% B—50% C—35%	38(100) C	38(100) C	38(100) C				
			⑫生徒	友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A—95% B—85% C—75%	92% B	96% A	94% B				
			⑩保護者	お子さんは、友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A—95% B—85% C—75%	95% A	92% B	92% B				
	豊かな心と健やかな体を育てる	心と体を鍛える生徒の育成「体」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・きちんとあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒 【2. 具体的な取組(Plan)】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元 ・生徒会委員会による横断的運動の立案実行	⑬生徒	どこでも誰に対しても自分からあいさつしている。	aの㊟ A—65% B—50% C—35%	38(96) C	42(95) C	43(100) C	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「あいさつ」の項目については「あてはまる」まで見ると95%と概ね良好であるが、「よくあてはまる」もにでは42%と4月から4%上がったが目標を達成することができなかった。保護者の評価も6%下がっており、教師の働きかけも4月から変わらなかった。自律清掃に関する項目については4月の調査から4%減少した結果となった。 【7月評価時点での成果と課題】 生徒会でボランティアを募ったのあいさつ運動や育友会のあいさつ運動などの取組が成果に繋がっている。普段の様子からあいさつはできているので、教師があいさつを返すだけでなくそうした良い行いを認めてあげる声かけが必要である。自律清掃については教師の取組とは反対なので、原因を分析して取り組んでいく必要がある。 ○目標・計画の再設定(Action) 目標の再設定は行わず、生徒会とも連携してあいさつが飛び交う活気ある雰囲気を作って行きたい。今後は対外的な行事も多くなるので定期的に指導もしていきたい。	（前期） 掃除の後半は汚れているところ見つけて掃除をする事になっているが、そんなのはあまり得意ではない。決まったことだけして終わってではなくて、まだなんかないかなという積み重ねができたらしい。悪かったところは分析して対応してもらえればいい。	【評価を終えて】 挨拶に関する項目については、「よくあてはまる」のみを見れば目標を達成することはできなかったが、「あてはまる」までを見れば100%と良好な結果であった。生徒会での挨拶運動の取組であったり、バス通学での乗車マナーであったり挨拶を意識した生活ができていたと思われる。今後も自信を持って「よくあてはまる」と回答できるように良い行いに対して価値付けをしていきたい。 自律清掃に対する肯定的な回答は7月と比べれば6%増えたが、「よくあてはまる」のみを見ると11%減少し、36%という結果であった。意見の中にも十分に組み立てていないところもあったりするので、自己評価そのものは甘さもあると考えられる。自分たちが使っている校舎を美しく保つことを通して社会性や責任感を育んでいけるように指導したい。
				⑪保護者	お子さんは学校や地域で元気にあいさつしている。	a+b A—90% B—80% C—70%	95% A	89% B	90% A			
				18教師	進んであいさつができるように指導している。	aの㊟ A—65% B—50% C—35%	75(100) A	75(100) A	75(100) A			
				⑮生徒	自律清掃を意識して清掃に取り組んでいる。	a+b A—95% B—85% C—75%	94% B	90% B	96% A			
	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成「家庭・地域連携」	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成「家庭・地域連携」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・地域に誇りを持つ生徒 【2. 具体的な取組み(Plan)】 ○生徒に地域の良さを知らせ、地域に参画できる生徒の育成 ・白山麓の良さを知り、ジオパークの推進 ・道徳の授業の工夫（地域教材の活用、地域GTの活用） ・運動会、文化祭で地域の文化に触れる ・地域の行事への積極的参加	⑯生徒	地域に関心を持ち、その良さを理解している。	aの㊟ A—70% B—60% C—50%	23(93) D	45(87) D	28(83) D	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「地域に関心を持ち、その良さを理解している」の項目では「よくあてはまる」と答えた割合は12%上がったものの、「あてはまる」まで含めた割合は6%下がった。「地域に貢献したいと考えている」生徒の割合は85%にとどまったが、4月から4%増加した。 【7月評価時点での成果と課題】 地域とのつながりが強い学校であり、家庭からの期待も高い。生徒の愛郷心をさらに高められるように、学校生活を充実させていく必要がある。また、行事や授業等でできるかぎり地域と連携した取組を行っていく。 ○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に活用する。また、活動の後は生徒に作文を書かせるなど振り返らせる機会を持つ。	（後期） 河内の子も達にしたら鳥越地区に建っている学校にくるので、よそ者という意識があるのではないかな。地域学習をするにしても鳥越地区のほうがやりやすい。小学校の間に子ども同士の壁を柔らくしたい。鳥越小と河内小が交わる機会を増やしていければと思う。河内の子も達が引け目を感じて入学しないようにしてあげなければならない。河内の子が鳥越中にくるときのどきどき感があると思う。同じ気持ちで中学校生活をスタートできたらいいと思う。地域としても河内の子らを受け入れてあげてほしいという気持ちでがでないようにしなければならない。大人もきをつけなければならない。	【評価を終えて】 「地域に関心を持ち、その良さを理解している」の項目では「よくあてはまる」が17%減少し、目標を達成することができなかった。特に2割の2年生が「あてはまる」と答えるようになった。また、「地域に貢献したいと考えている」の項目においても7月から7%減少した。特に3年生において「あてはまらない」と回答した生徒が増えた。高校体験入学などで行動範囲が広がったことで意識が変わってきたものと考えられる。今年度は地域とのコラボで文化発表会を行うなど、その他にも地域の方々を活用した学習活動を進めてきた。今後も総合的な学習を中心に地域と連携した活動を行っていききたい。
				21教師	地域に関心を持ち、その良さを理解するように取り組んだ。	aの㊟ A—70% B—60% C—50%	25(100) D	25(100) D	25(100) D			
				17生徒	地域に貢献したいと考えている。	a+b A—90% B—80% C—70%	81% B	85% B	78% C			
				22教師	地域への貢献意欲を高める指導をした。	a+b A—90% B—80% C—70%	100% A	100% A	100% A			